

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和6年3月6日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	12	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	3		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3890200425
事業所名	グループホーム松風園
(ユニット名)	ユニット2
記入者(管理者)	
氏名	近松聡行
自己評価作成日	令和6年 2月 26日

<p>【事業所理念】※事業所記入 グループホーム松風園は認知症高齢者の「ご自宅」であり、生活の場です。私たちは入居者の「ご自宅」での日常生活の維持と、生活の質の向上のために業務を行います。グループホーム松風園は、ご家族、近隣の方々、職員を含め松風園に寄り添っていただける方々の生活の質の向上を意図して運営します。入居者の方々の生活は松風園の中だけでは完結いたしません。ご家族、他の事業所の方々、近隣の方々にも協力し、また協力を受けて初めて入居者の方々の生活の場としての役割を果たすことができると考えます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 課題 重度化や終末期への支援 目標 本人家族が納得できる対応ができるよう、利用者や家族の意向を把握し、全員で共有する。看取り加算の条件を満たせるような体制を整える。 取り組んだこと 現実起こりうる事態を想定して、本人家族の意向を聞く。医療連携加算の条件を満たせるような体制を整える。訪問看護ステーションとの連携を検討する。 その結果 利用者2名が居室で亡くなりましたが、早めにご家族に相談し、もしもの時の準備をすることができました。医療連携加算申請の準備として、重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する指針を作成し、ご家族に説明し同意、署名をいただきました。 課題 虐待防止の徹底 目標 身体拘束や虐待について、何が拘束や虐待に当たるのかを、なぜそれをしてはいけないのかを、自分が利用者だったらどうかという視点から、職員ひとりひとりが認識する。 取り組んだこと お仕着せでなく、職員一人一人が胸に落ちるよう、定期的に考える機会を持つ。(運営推進会議後の話し合いの場等)その結果 定期的なミーティングを行なっています。(身体拘束廃止未実施減算にも対応する為) (作成日 平成30年5月21日)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 利用者の中には、一日一回、散歩することが日課の利用者があり、近くの施設で飼っているヤギを見に行ったりすることもある。 ケアマネジャーは、約半数の家族とSNSでつながっており、誕生会や行事などの写真をリアルタイムに送信している。 週2回、午前中に入浴を支援している。利用者ごとに湯を入れ替え、入浴剤を入れ、湯温は希望に沿っている。浴槽のまがしが難しい人も、リフト付シャワーチェアを使用し、浴槽で温まることができるよう支援している。温まっている間は、職員は、脱衣所あたりで見守るようにしている。浴槽で温まってから体を洗う習慣の人にしている。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	アセスメントによる情報と共に本人とよく関わりを持っている	○		○	入居時には、利用者や家族から暮らしの意向を聞き取り、基本情報シートに記入している。日々の会話の中で利用者から聞いた希望や意向は、タブレット端末の介護記録に利用者の言葉をそのまま記録している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の観察をしているその日によって介助方法も変えている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会者からも聞き取りをしている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	他の職員に伝えたいお話の内容は記録に残している。他の職員に読んでもらう工夫はこれからの課題と思います(管理者)				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みで介助をすると不穏という形で返ってくる				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アセスメントにて知ることが出来る			△	入居相談の折に、聞いた生活歴等の情報を入居相談シートに記録している。入居時、センター方式の暮らし方シートを家族に記入してもらっているが、人によって情報量に差がある。さらに、入居後に得た情報も含めて利用者の以前の暮らし方が分かるようなアセスメントシートに工夫してほしい。以前のこだわりや大切にしてきたこと等を事業所の支援に活かして、利用者のその人らしい暮らしを支える支援につなげてほしい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	レクなどの参加により一人一人の性格など知っていく				
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	夜勤もしており把握している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ユニット会で検討している			○	事前に利用者や家族から希望を聞いておき、サービス担当者会議やケアカンファレンス(ユニット会時に行う)時、利用者の言葉等の情報も踏まえて話し合っている。サービス担当者会議時には、主治医(法人代表者)が出席している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	日によっての利用者の変化に対応している				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	帰宅願望は止めているので難しい部分です				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ユニット会にて実行している	○		○	家族からは「お任せします」と言われることが多く、具体的な意見はあまり出ていないようだ。状態によって主治医のアドバイスを採り入れている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	体調により座位をしている/わかりません				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	訪問マッサージ訪問カット往診を活用している				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアチェック表にある内容で把握、共有している(管理者)			○	新たに介護計画を作成した際には、事務所に掲示する等して周知している。ケアチェック表に、長期・短期目標と支援内容を記入しており、職員は毎日チェックすることで把握・共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアチェック表にて実施している			○	ケアチェック表に毎日記号(○・×)を付けてケアが実践できたかを記入している。必要に応じて具体的内容を紙内にメモしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	急変時は間に合わない時があるが気を付けている			○	ケアマネジャーが責任を持って期間を管理しており、一年ごとに見直ししている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ケアチェック表にて確認している			○	ケアチェック表をもとにしてケアマネジャーが毎月モニタリングを行っている。 毎月のユニット会時に、ケアカンファレンスを行い気になる利用者の現状について話し合っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	早急に家族に連絡している			◎	この一年間では、不穏状態が続く利用者や看とり時期に入った利用者、退院後、身体状態に変化がみられるような利用者について介護計画を見直ししたような事例がある。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月一回ユニット会をしている			◎	毎月、事前に議題を出しておき、ユニット会を行い議事録を作成している。ユニット会時に、ケアカンファレンス、研修もしている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	皆の意見は聞いている					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	グループラインにて共有している			◎	基本的には、ユニット会は第3火曜日の18時半からと決めて行っている。職員の都合によっては、日時を変更する場合もある。職員の参加は多く、夜間の対応等、活発に意見交換を行っている。議事録を確認した職員は捺印するしきをつけている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	グループラインにて共有している		◎	○	業務日誌や職員でSNSのグループをつくり、情報伝達をしている。	
<b>(2) 日々の支援</b>										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	利用者によく話しているようにしている					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	段取りは促すが必ず聞いている			○	ユニット2では、レクリエーションの道具を職員が手づくりしており、居間の棚に見えるように収納している。利用者は、いつでも手に取ってみたい、やってみようものを選んでいたりしている。	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	努力している					
		d	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉や声かけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の表情を見ながら会話を変えている				○	家族の話などをする利用者には、「すごいですね」等と応えながら本人が話をしやすいように気を付けている。「昔はこんなことがあった」と懐かしい話をする人にはじっくり聞くように気をつけている。
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	努力している					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめ介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	職員間でも気をつけるよう話し合っている	◎	○	△	事業所内研修の年間計画を立てて、ユニット会時に15分～20分程度行っており、5月には、プライバシー保護に関する研修を行い、人権や尊厳について学びを深めている。 管理者(施設長)は、ユニット会時を捉えて、職員に「人に見せられるような仕事をしましょう」と話している。 気になる点があれば、職員間で伝え合う様子が見られるようだが、調査訪問日には、利用者への言葉かけが指示口調になったり、「座っておいて」と言ったりするような場面が気になった。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	努力している					
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックしたり入室に入ることを伝えている				○	ユニット2の居室の入り口戸の内側にカーテンを付けており、戸を開けておく時には、カーテンを引くように配慮をしている。ユニット1は、必要な人の入り口にカーテンを付けていた。利用者が入室している場合、そつと様子を確認したり、声をかけてから入室したりしている。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員間で話し合い共有している					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	ありがとうございますと声掛けしコミュニケーションしている					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の相性に気を付けている					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	○	現在がまさにその環境にあり仲介にも入っている				○	入浴が嫌という利用者にも、他利用者が「一緒に行ってあげよ」と、脱衣所まで付き添ったり、「入っときよ」と促してくれたりするよう、本人は「じゃあ」と言って入浴するようだ。 テーブルを囲んでゲーム等して楽しい時間を過ごせるよう取り組んでいる。 クリスマス会や盆踊り等の行事を両ユニット合同で行い、交流する機会をつくっている。 ユニット1の居間にマッサージ機を置いており、ユニット2の利用者が使用しに来ることがある。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	○	現在がまさにその環境にあり仲介にも入っている					
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	キーパーソンと話し合っている					
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会も外出もしている/感染対策を十分行った上で出来る限り支援しています					
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	外気浴はもちろん外出も動めている	○	○	○	利用者の中には、一日一回、散歩することが日課の利用者がおり、近くの施設で飼っているヤギを見に行ったりすることもある。 夏は、外で花火を楽しんだ。秋には、紅葉狩りにドライブを支援した。1月には、初詣に近くの神社に出かけるなど支援しているが、今後は、時期をみながら、利用者の希望等も聞きながら外出を楽しむ機会を増やしてほしい。 利用者の中には、以前から通っていた心療内科のデイケアに薬の調整のため、続けて通っている人がいる。	
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	今は家族が主になっている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員と共有し工夫している				一日1回、午前か午後かに体操する時間を設けている。 洗濯物たたみなど、利用者に「お願いしてもいいですか」と聞いて一緒に行うような場面をつくっている。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	無理のない範囲で体を動かしたり口腔体操もしている					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	レクとして物作りに参加してもらっている	◎		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	施設内のみで出来ることはしてもらっているが全てではできない				新聞や本を読む習慣の人がおり、居間のテーブルに雑誌や新聞を置いている。また、居間や居室の本棚に本を並べている。 季節の作品づくりなど、皆で作業する場面をつくっている。 職員が家事をしていて利用者が「お手伝いするよ」「私もさせて」と言うような場合は一緒に行うようにしている。 事業所周辺には地域資源が多く、ホーム外にも利用者の楽しみを拡げてほしい。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	努力はしているが施設内では限りがある	○	○	△		
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	髪いじりが好きな人にはおしゃれをしてもらっている(ピン留花ゴム)				食事時は、自分用のティッシュボックスを用意していた。 食事前エプロンを付けて食事をする人がいた。 食べこぼしは、職員がその都度対応していた。  2〜3か月ごとに訪問美容師が来ており、利用者に希望を聞きながら、本人が納得いくようにカットをしている。 職員が利用者の衣類の買い物を代行する場合は、利用者が使用しているものと同じようなものを買うようにしている。 マニキュアをする日をつくっている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	家族にそろえてもらっている					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	どうしたいって聞いたり表情は確認している					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	服の枚数は多くはない					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	明るいムードを作り、直している		○	○		○
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	訪問カットを利用、希望する家族は外出している					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問カット利用					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食に満足していると夜も良く休まれる				調理専門の職員が、買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等を行っている。 利用者は、お盆拭きを行っている。また、豆の皮むき等がある時は一緒に行っている。 利用者が食事づくりの一連にかかわるような機会はほばない。  入居時に持ち込んだ個人用の食器等を使用している。 食器に名前シールを貼っていた。  利用者の食事介助したり、台所で片付けたりして、後で休憩時間として、別室で持参した弁当を食べている。 管理者のみ、利用者と同じものを一緒に食べている。  居間にいると、台所の様子がよく見えて、料理ができるにおいがする。さらに、今後も、利用者がおいしい食事を楽しみにしたり、楽しんだりできるような支援に工夫を重ねてほしい。  職員で話し合う機会は持っていない。事業所では、柔らかく、食べやすい食事づくりに気をつけている。 食材は、小さめに切って調理していた。また、主食のごはんは柔らかく炊いていた。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物、食材選びはしていない					×
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	テーブル拭き、お盆拭きしか出来ない。調理、食事の過程も、他人のお世話になるだけでなく自分の力で出来ることは大切だと思います(管理者)					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アセスメントに記入					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	△	お正月、七草がゆ、節分、ひな祭り、などメニューを交えているが、食事の対応は十分とは言えない(管理者)					○
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	ミキサー食や刻み食へはできていない					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	家族が持参している					◎
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	ユニット2は管理者が同じテーブルで食べて、利用者にはいただきます、ごちそうさまでしたと挨拶している(管理者)					△
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食事の前に、食事を意識されるよう声掛けをしている(管理者)			◎		△
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	水分摂取量は記録して気を付けている。終末期で食事が少ない方には菓子パン、チョコレート、イチゴなど好きなものを提供している(管理者)					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	△	主にエンシュア利用					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	話し合いはしている					△
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△	調理用具はミルトン消毒している					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	朝夕実施している				利用者が頻繁に歯を触るなど、職員が気づいたことがあれば口腔内を確認して、必要があれば歯科医につないでいる。  朝・夕食後に、声かけや誘導を行い、口腔ケアを支援している。昼食後は、本人の自主性に任せている。各居室に洗面台を設置している。昼食後に居室の洗面台で利用者の歯磨きのサポートをしているような様子が見られた。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食欲が落ちると口内を診たり無料受診もしている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	司会や歯科衛生士からは学んでいない(管理者)				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	声掛けしブラッシングやタフデントにつけている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎日している歯科受診(往診)もしている			△	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解はしているが最近の紙パンツははき心地も良くダメージとは思えない				毎月のユニット会時に、夜間の様子なども情報交換しながら支援について検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の日数が分かるようにしている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	記録している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	努力している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量のチェックや投薬も相談している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	トイレには付き添い見守りをしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	お元氣だった方が体調悪くトイレで2人介助が必要になり夜間のおむつと言うことはある。そのようなときは本人にお話しし、お家族に相談というよりも報告している(管理者)				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	紙パンツも履き心地が良いので問題はないオムツでもトイレの時ははくパンツにしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分チェック体操を取り入れている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	時間帯は午前と決めてしまっている。回数も週2回と決めてしまっている。長さ温度等は希望により変えている(管理者)	◎		○	週2回、午前中に入浴を支援している。利用者ごとに湯を入れ替え、入浴剤を入れ、湯温は希望に沿っている。浴槽のまたぎが難しい人も、リフト付シャワーキャリーを使用し、浴槽で温まることができるよう支援している。温まっている間は、職員は、脱衣所あたりで見守るようにしている。浴槽で温まってから体を洗う習慣の人に依っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	会話を絶やさないようにしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	出来る事には手を貸さずしてもらっている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	曜日を変更している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	健康チェックは毎日している				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録している				主治医に利用者の状況を報告して相談しながら支援している。現在は、約半数の利用者が入眠導入剤を使用している。さらに、ケアマネジャーは、現在、利用者の日中の活動量が足りていないように感じていた。利用者一人ひとりの日中の過ごし方について、工夫できることはないか話し合ってみてほしい。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動に気を付けている				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	何かあれば医師にも連絡している			△	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	様子を見ながら休んでもらう時もある				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	実施している					
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	実施している					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	実施している					
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いたら連絡している					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	実施している					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解はしているが持たせるのは難しい					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍でもありしていない					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	認知の進行具合もあり直接は渡せない					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	職員が預かっている/ケアマネが行っている					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳を用意しており記録している					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	訪問マッサージを利用、ボランティアも来ている	◎		○	マイナンバーカード手続きの手伝いをしたり、受診の付き添いや買い物代行等を支援している。退居の際、家族からの要望で、私物の処分を請け負うことがある。	
<b>(3) 生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花壇に多肉植物を植え近所の人とも会話している	○	◎	○	駐車場からの入り口に門扉を付けているが、鍵はかけていない。玄関周りは、掃除が行き届き、花壇に植物を整備していた。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節の壁面装飾を利用者に作ってもらっている	◎	○	◎	木の温かみを感じられる造りで、居間は、天井が高く、梁が見えて天窓からの自然光で明るい空間になっている。テレビの横にカサブランカの花等を活けていた。壁面には、ひな人形のタペストリーをかけた二十四節気を記した表を掲示したりしていた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日している			◎	室内の戸は、大きいガラス戸が多く、見通しがよく明るい。不快な音や臭いもなく、掃除が行き届き清潔感がある。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	共用スペースにカレンダーを掲示し、今日は何日か聞かれたときはカレンダーを見ていただくようにしている			◎	昼食後、テレビの画面に自然の風景の映像を流していた。テレビに、インターネットをつないでおり、ドラマ等を見て楽しんでいる。テレビの上部に、白地に大きい黒太字の文字盤の時計をかけている。洗面所に、メダカの水槽を置いている。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	個室あり					テレビを持ち込んでいたり、家族の写真を飾っていたりする居室がみられた。自宅から本を持参している人は、棚に並べて手に取れるようにしていた。以前、本人が活躍していた活動時の写真を飾っていた。
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	なじみの家具写真など置くようにしている	◎		△	テレビを持ち込んでいたり、家族の写真を飾っていたりする居室がみられた。自宅から本を持参している人は、棚に並べて手に取れるようにしていた。以前、本人が活躍していた活動時の写真を飾っていた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレの表示、居室扉の名前の表示などで職員に聞かなくても自分で行けるように配慮している(管理者)			○	トイレの表示は、居間の方からも見えるように設置していた。トイレ内に「トイレは座ってください」と大きく貼り紙をしている。貼り紙については、現在の状況で必要かどうかを常に点検してほしい。居室のベッドの足もとにセンサーを設置しているケースがある。	
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	本や新聞は毎日読んでいる					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	センサーを設置している		○	◎	◎	事業所内研修(ユニット会時に行う)の身体拘束に関する研修時に理解を深めている。門扉は閉めているが、鍵はかけていない。玄関は日中は、鍵を付けていない。玄関にセンサーを付けている。落ち着かずひとりで出かけていく利用者が、いつでも出られることが分かったことで、状態が落ち着いたようなケースがあったようだ。そのエピソードがあり、職員は、鍵をかけないケアの大切さを理解することにつながった。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時に説明している					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント有り					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	している					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	日々気を付けている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	アセスメント有り受診も家族に行ってもらっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	主治医、家族と話してから受診している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必ず報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	△	フェイスシート、アセスメントシート、最近のバイタル記録、介護記録は必要に応じて提供している。特にこだわりがあること、気を付けることについては別途伝えている(管理者)				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	定期的に関わり合い、訪問している(管理者)				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	している				
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	と言っているのですが夜は一人で対応だと思えます				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態変化は看護師又は管理者に報告している。看護師、管理者は主治医に報告又は内科以外の受診の手配をしている(管理者)				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	マグミット等以外、特に一包化されているものについては区別が付きにくい。体調の変化については看護師、医師、家族に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックをしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	記録している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	家族とは密に連絡を取り合っている/重度化→病院特老に入っていたらどうするか話し合う/重度化した場合の指針を説明し承諾をいただいている				入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明を行っている。状態変化時には、主治医から家族に状況説明があり、話し合ってから方針を決定している。 この一年間では、5名の利用者の看とりを支援した事例がある。早い段階から家族と連絡(リモート面会も活用)を取り合い支援した。また、家族が時間を気にせず利用者と過ごせるよう支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化、終末期の支援について、家族から入院の希望があれば主治医に入院先の紹介を依頼し、看取り希望であれば主治医と協力して看取りを行います(管理者)	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ユニット1に同じ				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	文章にして送付している				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	常に話し合いはしている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肺炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	早期発見、早期対応を気を付けていますが、実際に発生した時その都度判断し対応しています。年に1~2回施設内研修の時間を取っています(管理者)				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	利用者全員感染し施設内療養、職員2名以外全員感染するクラスターの経験あり、ユニット1より2名応援受ける、ユニット1への感染は防ぐ。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	感染症の発生状況などの情報により、面会の方法などを変えています(管理者)				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	来訪者は手指消毒をしてもらっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	よく話をしている				<p>特にには取り組んでいない。</p> <p>毎月、利用料金の請求書とともに、本人の写真を同封している。</p> <p>ケアマネジャーは、約半数の家族とSNSでつながっており、誕生日や行事などの写真をリアルタイムに送信している。その他の家族には、必要時に電話等で状況を報告している。</p> <p>さらに、定期的な報告に工夫してはどうか。家族が知りたい本人の情報を発信するような取り組みを工夫してみてください。</p> <p>現在は、運営推進会議の案内は家族に送っていない。行事については、毎月、写真を送ったり、ケアマネジャーがSNSで写真を送信したりしているが、事業所の運営上の事柄や出来事について報告するような取り組みは行っていない。</p> <p>家族と話す折には、利用者の様子を報告してから要望等を聞くようにしている。</p>	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	出来る時はしてもらっている/コロナ禍であった為これからの課題であり築いていかなければいけない内容と思われる	○		×		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	写真を送ったりラインで報告している/主にケアマネが行う	○				△
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	努力している					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	グループラインを活用		×			×
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	自由になって歩かれることは大切なので、そのかわり転倒骨折などのリスクがあることを説明しています(管理者)					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族とラインを交換している					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	×	説明しないと支払いをしていただけないので説明しています(管理者)					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	×	職員個々は認識していませんがこちらから退去等をお願いする場合は、お暮しになる手段を尽くしたうえで、ご本人の為という視点でご家族に特養の申し込み等を相談しています(管理者)					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	隣の住人センターには時々挨拶しています。運営推進委員の民生委員の方以外には特に説明していません。自治会費、こどもまもり隊会費を納めています(管理者)		○		<p>クリスマス会の折には、歌のボランティアを他市から受け入れた。</p> <p>散歩時には、畑作業をする人等に挨拶をするよう心がけている。</p> <p>落ち着かない利用者がひとりり出かけて行った際、職員も付き添っていたが、対応しかねていた折、事業所妻の小学校の先生が「どうしたの?」と対応してくれて利用者が落ち着いたようなことがあった。後に、学校に電話をかけ、お礼を伝えようとした。</p> <p>今後は、事業所の方から地域に働きかけてつながりをつくってほしい。</p>	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	運営推進会議が再開した		○	△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	学校の先生の協力があつた					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	多肉植物を植えていると話しかけられ話した					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶はしている					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	ほとんど職員がしている					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を深める働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店、スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	散歩の時畑仕事をされているかたに挨拶をし話しやすい雰囲気をつくるようになっています。公民館の行事の参加、散歩の途中で保育所に立ち寄るなどしていましたが、コロナで中断していません(管理者)					
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	民生委員2名は地域の方ですが、現在は家族の参加はありません(管理者)	×		×	<p>この一年間では、民生委員、地域包括支援センター、市の担当者、利用者の参加を得て、令和5年12月、令和6年3月のみ集まる会議を行っている。</p> <p>会議時には、利用状況、利用者の状態、活動等を報告して意見交換をしている。</p> <p>メンバーから会議資料に「活動の様子の写真があれば分かりやすい」と意見があり、3月の会議資料から写真を採り入れた。</p> <p>サービス評価は、この4年間実施していないため報告は行っていない。</p>	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	議事録は次回の運営推進会議の資料に入れています(管理者)		◎	△		
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	コロナで当分できていなかった			◎		



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
IV.より良い支援を行うための運営体制											
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	開設時の理念はあり掲示しています。より分かりやすいものを一言でいえるかどうかという視点で職員で話し合い決めてみてはどうかと思っています。(管理者)						
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	パンフレットには載せていますが、読んでいただくには少し長いかも知れないと思っています(管理者)	○	△				
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	実践者研修には1名ずつ参加をお願いしているが、今年度はけがで休む職員もあり、参加していない(管理者)						
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	ここでの仕事だけではなく、次のキャリアに繋がるようなスキルアップをして欲しいと考えているが、時間的余裕がなくこれからの課題となっている(管理者)						
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	評価により個別に給与等を変えることは難しいが、過去1年間特に全体の給与水準を引き上げている(管理者)						
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	今治市グループホーム交流会に参加していたが、コロナで中断しています(管理者)						
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	休憩室の整備、お昼休憩を1時間取れるように気を付けていますが、人手不足により取れない時があります。その時間は時間外労働としています(管理者)	○	○	○			現在、職員の人手不足が事業所の課題となっている。職員から職員増員の要望が多い。施設長である管理者が、職員にお菓子を差し入れるなどして労っている。法人代表者が運営推進会議やサービ担当会議に参加している。この一年間では、給料のベースアップを行った。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	通報義務があることは皆知っていますが、通報方法などは特に説明していません(管理者)					事業所内研修(ユニット会時に行う)の虐待防止に関する研修時に理解を深めている。	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	いつもお話ししています(管理者)						
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	気を付けて言葉掛けなどをしていますが、まず人手不足を解消する必要があります(管理者)						
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	(利用者の安全の為に)身体拘束は必要悪という意識は根強いものと感じることがありますが、ユニット会のたびにお話ししています(管理者)						
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ユニット会でしている						
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	ご家族から要望はありませんが、過去緊急や無負えない場合に説明して了解をいただいたことがあります(管理者)						
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	まだそのような相談はないが情報は気にしている						
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	地域包括支援センターの方は運営推進会議のメンバーなので定期的に相談ができますが、その他の専門機関との連携は出来ていません(管理者)						
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあり掲示しています。						
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練まではしていません。定期的にけがや感染症の発生などがあります。						
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ユニット会でしている						
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態変化に注意し、いつも歩行に問題ない方にふらつきなどが見られたら近くで見守り、介助するようお願いします(管理者)						
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルはありますが、見ていない人もおられると思います(管理者)						
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情は今はない						
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過と結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情は今はない						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	ユニット2判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族とお話する機会に、お話を聞ける雰囲気、間を作るようにしています(管理者)	◎		△	令和6年3月の運営推進会議にのみ、利用者が参加しており、参加した利用者は運営に関する意見や要望を伝えるような機会がある。その他の利用者や家族については、特に機会はつづいていない。  管理者やケアマネジャーは、職員に声をかけるなどして話しやすい雰囲気にも努めている。また、職員と一緒にケアに取り組みながら話を聞いている。管理者は、「自分が利用者だったらどうか」という視点で話をすめられるよう努力をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初しか行っていません(管理者)				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	法人理事長は往診で月に数回訪れており要望など聞いているようです(管理者)				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	いつもお話していますが、人手不足が原因のお話が多いです(管理者)			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価がないときは自己評価もしていませんでした(管理者)				この4年間、サービス評価に取り組んでいない。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	最近評価をしていませんでした。(管理者)				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	×	評価結果は運営推進会議で報告していましたが、最近では評価も会議もしていませんでした(管理者)	△	△	×	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	するようにしていますが結果までは報告していませんでした(管理者)				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	市、県の指準に従い作成提出していますが、周知まではできていません				この一年間は、避難訓練は実施していない。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	重篤者もいるのでなかなか実施できない				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	非常用食品、ブルーシート、車いす用レインコートなどは用意しています。消火設備の点検は業者が行っています。避難経路は小学校体育館まで一本道100m位です(管理者)				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	支援、協力体制としてはありませんが、運営推進委員の方が自治会の役員をしておられますので、相談しています(管理者)	△	△	×	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	ネットワーク作りに参加していませんが、今治市指定の福祉避難所に登録しています収容2名+家族2名(管理者)				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	情報発信は特にできていません(管理者)				特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	近くの方から入居申し込みがあった時はお話を聞いて相談を受けることがあります(管理者)		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	ユニット2の縁側をそのように使いたいと思っていましたができていません(管理者)				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	資格を持たない方が求人応募された場合、最初働きながら資格を取られるようにお話ししています。職員もいつかは転職されるので、職員のスキルアップが地域人材の育成と思っています(管理者)				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動を協働しながら行っていません。盆踊り餅まきなどのイベントに参加するだけになっています(管理者)			×	